

窓辺

地域との連携

まえだ
前田

しのぶ
忍

大井川鉄道の代表に就任した直後から、地域の区長会や住民の方を対象とした大井川鉄道の方針説明会を複数回にわたって開催してきた。今後の増便の可能性や大井川鉄道の存続について

教えてほしいというリクエストを受けての説明会だった。しかし、私にはもう一つ説明会を開催する目的があった。それは、地域の方々に感謝の気持ちを伝えることだ。

大井川鉄道のS1が走る本線は19駅ある。そのうち

全時間での有人駅は3駅だけで、他は一部時間の有人駅もしくは無人駅である。無人駅の多くは、駅周辺の住民の方々に清掃活動や景観整備を行っていただいている。

沿線の方々のこうした協力がある中、今年3月には私が会長となり「大井川流域を花で満たす会」を設立した。駅設備の修繕と沿線の景観整備活動を継続的に実施していくことが狙いだ。今では月1回の頻度で、大井川鉄道と地域住民の方

々が連携しながら活動を行っている。

この取り組みは各駅でかねてより整備活動に汗を流してくださっている方々の思いを反映したものを一緒に作り上げることが主眼であり、大井川鉄道という企業単体で実施しては本来の意味が薄れてしまう。この活動自体が地域との協働作業であると思っている。

そしてこの活動を通じて、より多くのお客さまに四季のある沿線の素晴らしさを感じていただくことを目指している。今後も地域の方々に支えられながら、活動を続けていければと願っている。

(大井川鉄道社長)